

[キームーア] 『貧困者の就労によって国家を富裕にする方法』 初版 1650年 ロンドン刊

[KEYMOUR, John.] A cleare and evident way for enriching the nations of England and Ireland and for setting very great numbers of poore on work. London. Printed by T. M. and A. C. and are sold by John Saywell at the Grey-hound in Little-Britain. 1650. [4], 18pp. Tall 4to. Title within woodcut borders. Recent wrappers. Wing K389. Kress 808. Goldsmiths' 1159.

労働能力のある貧民に雇用を与えて怠惰あるいは浮浪化を防ぐ試みはエリザベス救貧法の目的の中にあっただが、それは、さしあたっては生産力効果をめざすものではなかった。しかし、市民革命で絶対主義的救貧行政が崩壊、産業革命が進展すると、彼らを産業に雇用して、国富の増大や救貧税の減少を図る改革案が討論されるようになった。17世紀後半から出てきた「貧民の有利な雇用論」がそれであり、後に、チャイルド、ヘイル、デフォー、ロックなどが論じることになる。本書はそれに先駆けて出版されたものであるが、国内に所蔵がほとんど見られない貴重なパンフレットである。

